

第 92 回 国立大学法人新潟大学経営協議会 議事概要

- 1 日 時 平成 30 年 11 月 26 日（月） 13 時 00 分～13 時 36 分
- 2 場 所 新潟大学駅南キャンパス ときめいと 講義室 A
- 3 出席者 12 名（高橋学長，濱口委員，大浦委員，高橋均委員，牛木委員，川端委員，高比良委員，岩田委員，齋藤委員，神保委員，高橋道映委員，三輪委員）
（ほか田代監事，逸見監事，鈴木副学長がオブザーバー出席）

4 議事概要について

第 91 回（平成 30 年 9 月 13 日）の議事概要が確認された。

5 審議事項

（1）国立大学法人新潟大学職員就業規則等の一部改正等について

国立大学法人新潟大学職員就業規則等の一部改正等について，資料 1 に基づき審議が行われ，原案のとおり承認された。

※意見・質問なし。

（2）国立大学法人新潟大学役員給与規則の一部改正について

国立大学法人新潟大学役員給与規則の一部改正について，資料 2 に基づき審議が行われ，原案のとおり承認された。

※意見・質問なし。

6 報告事項

（1）平成 29 年度に係る業務の実績に関する評価結果について

濱口理事から，平成 29 年度に係る業務の実績に関する評価結果について，資料 3 に基づき報告があった。

※意見・質問なし。

（2）平成 30 年度地方大学・地域産業創生交付金事業の選定結果について

川端理事から，平成 30 年度地方大学・地域産業創生交付金事業の選定結果について，資料 4 に基づき報告があった。

[主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言， ■：本学側の発言]

- ・本事業が採択され、計画されていた取組が実施されることを期待していたので、結果については大変残念である。申請に向けた事業の検討において、自治体はどのような姿勢であったか。
- ・関係する自治体の機運が十分に高まらなかったということについては否定できない面もあるが、検討を進めるにつれて前向きになってきた自治体もあった。補助金という予算の獲得が目的となってしまう、その予算によって変革を起こすという動きまでには高まっていなかったという印象もあるが、今回の申請及び不採択という結果が、今後機運を高めて行くための刺激となるのではないかと考えている。
- ・自治体間の協力関係が十分ではないというケースもあるだろうが、そういった課題をあぶり出すきっかけにもなったのではないか。加えて、予算面を含めて、自立的な事業実施に向けての課題も少なくないものと推測するが、中央から見ると地方でのこうした取組は夢のある案件であるため、今後もぜひ進めていただきたい。
- ・指摘のとおり、自治体間の関係や本学と他大学との関係について、様々な側面が見えてきた。それだけでなく、国による補助事業への申請という共通の課題に向けて協働したことを通して、自治体・大学間の関係が良好になったという印象がある。
- ・審査員の立場からすれば、採択するためには、スター性のあるプロジェクトやプロジェクトリーダーが必要となるであろう。
- ・貴見のとおり、審査の過程でビジネス界からのプロジェクトリーダーが必要ではないかという指摘があった。しかし、自治体、企業、大学にまたがる事業を運営することができる人材がビジネス界に存在するかという疑問であり、現実的には単にリーダーをビジネス界から招へいすれば解決するというものではないのではないか。申請したビジネスモデルを作るためには、県又は企業が中心となるべきということではなく、自治体、企業、大学の外側にチームを作らなければならないと考えている。

(3) 平成 29 事業年度における剰余金の翌事業年度への繰越しに係る承認及びその用途について

川端理事から、平成 29 事業年度における剰余金の翌事業年度への繰越しに係る承認及びその用途について、資料 5 に基づき報告があった。

※意見・質問なし。